

NEWS RELEASE

各位

2019年4月26日

ニッポンハム食の未来財団 2019年度研究助成課題(全22件)を決定 ～食物アレルギー対策研究を支援～

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団(事務所:茨城県つくば市、理事長:山田良司)は4月26日(金)、2019年度の研究助成課題(全22件)を公開しました。

2019年1月、厚生労働省が「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略」を発表し、免疫アレルギー疾患に対する今後の方向性と具体的な研究事項を明示するなど、社会全体で免疫アレルギー疾患の問題解決を目指した研究の推進が求められています。

本研究助成は、対象領域を「免疫アレルギー疾患」の中の「食物アレルギー」に特化しているのが最大の特徴です。根本的な治療法や予防法などが確立されていない現状を打開し「食物アレルギー」でお悩みの方にも「食べる喜び」を提供することを目指しています。助成区分として「共同研究助成」と「個人研究助成」の二区分を設け、前者は異分野(例:医学と食品)研究者の協働による「食物アレルギー」の問題解決を、後者は「食物アレルギー」の問題解決にチャレンジする若手研究者の育成を狙いとしています。

当財団として四回目の公募となる2019年度研究助成事業では、両区分合わせて48件の応募の中から22件を選出し、総額6,299万円の助成を実施します。

当財団ではこれからもすべての人に「食べる喜び」を提供するための一助となることを願い「食物アレルギー」の研究推進を支援して参ります。

2019年度 研究助成先一覧(次のページへ続く)(敬称略・50音順)

【URL】 https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2018/02_result.html

■(A)共同研究助成先(6件、助成金合計3,410万円)

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	安達 貴弘	東京医科歯科大学難治疾患研究所 准教授	食物アレルギーにおける免疫記憶の機序解明
2	岡田 直貴	大阪大学大学院薬学研究科 教授	重症食物アレルギーに対する経皮免疫療法の実用化に向けた非臨床・臨床POCデータセットの取得
3	佐藤 里絵	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 上級研究員	ソバアレルギーの特性変化に効果的な手法の探索
4	水野 雅史	神戸大学大学院農学研究科 教授	ヒ素摂取量低減を目的としたフコイダンの血中ガレクチン9分泌を促進させる食品成分との食べ合わせによるアレルギー発症予防
5	村田 幸久	東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻 准教授	食物アレルギー診断技術の開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5グリアジン欠損食用小麦の開発: ω -5グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

※リリースに関する問い合わせ先

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 沖浦・川澄まで

2019年度 研究助成先一覧（続き）（敬称略・50音順）

■(B)個人研究助成先（16件、助成金合計2,889万円）

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	飯嶋 益巳	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 准教授	HACCP 導入に向けた抗体精密整列化技術による食物アレルギーの超高度検出法の開発
2	臼井 健二	甲南大学フロンティアサイエンス学部 准教授	工場内におけるアレルギー感作評価が可能なペプチドビーズを用いた簡易検査法の開発
3	大嶋 直樹	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター 消化器内科 医長	血清microRNAを用いた好酸球性食道炎の新規バイオマーカーの確立
4	大田 昌樹	東北大学大学院工学研究科附属 超臨界溶媒工学研究センター 助教	食物アレルギー対応食品製造のための新しい高圧噴霧技術の開発
5	川本 義之	中部大学 准教授	水溶解メラニンによるアナフィラキシー応答制御と作用機序の解明
6	小島 令嗣	山梨大学大学院 総合研究部医学域 社会医学講座 助教	家塵中の鶏卵抗原と鶏卵アレルギー発症の関連の解明
7	澤 新一郎	九州大学 生体防御医学研究所 システム免疫学 統合研究センター 粘膜防御学分野 教授	3型自然リンパ球を利用した新規食物アレルギー予防法の開発
8	清水 裕	北海道大学大学院 水産科学研究院 技術専門職員	メイラード反応が甲殻類アレルギーの消化・吸収性へ及ぼす影響の解明
9	田中 守	中部大学応用生物学部食品栄養科学科 講師	食物アレルギーに対するカンナデンプンの予防効果
10	津曲 俊太郎	神奈川県立こども医療センター アレルギー科 医長	花粉-食物アレルギー症候群に対するシラカバ花粉免疫療法の有効性と安全性の検証
11	永井 宏幸	岐阜県保健環境研究所 専門研究員	LC-MS/MSを用いた特定原材料のアレルゲンおよび品種判別同時分析法に関する研究
12	永倉 顕一	国立病院機構相模原病院小児科 医師	重症鶏卵アレルギー児に対する経口免疫療法ランダム化比較試験: 炒り卵 VS 加熱卵粉末
13	中島 陽一	藤田医科大学医学部小児科学 講師	低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
14	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院小児科 助教	乳児期のビタミンD投与によるアレルギー予防に関する研究開発
15	水島 秀成	北海道大学大学院理学研究院 生物科学部門 助教	鶏卵アレルゲン除去卵の作出
16	森田 英明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明

2019年度 研究助成事業概要

■目的

食物アレルギーに関連する知見獲得、問題解決を目指す研究者及び研究グループに対して研究助成金を交付し、研究開発の推進を通して、食物アレルギーに関わる環境改善に寄与することを目的としています。

■研究期間

2019年4月1日～2020年3月31日

■成果報告会

2019年10月頃実施予定（東京）

■助成金額等

2018年7月13日から9月30日の期間に公募を行ない、研究助成審査委員会による厳正かつ公正な審査の後、理事会で決定しました。応募総数は48件、採択数は22件、助成金総額は6,299万円です。

<内訳>

- 共同研究 助成件数：6件（応募件数15件）、助成金合計3,410万円
- 個人研究 助成件数：16件（応募件数33件）、助成金合計2,889万円

■ご参考まで（過去3年（2016～2018年度研究助成）の総計）

- ・助成件数：65件
- ・助成総額：1億8,314万円

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 概要

すべての方に「食べる喜び」を感じて欲しいという強い想いから2015年1月に日本ハム株式会社により設立され、2017年4月には内閣総理大臣より公益法人としての認定を受けました。「食物アレルギー」領域に特化して、研究助成と啓発活動を行なっています。